

平成 18 年度海外行政調査（中国） 報 告 書

日 程 : 平成 18 年 10 月 24 日（火）～29 日（日）

訪問地 : 中華人民共和国（浙江省、杭州市、江陰市、上海市）

福井県議会中国訪問団

団 長	福井県議会日中友好議員連盟会長	美濃美雄
副団長	福井県議会日中友好議員連盟副会長 上海定期便利用促進議員連盟副会長	前田康博
団 員	福井県議会日中友好議員連盟事務局長 上海定期便利用促進議員連盟事務局長	小泉剛康
〃	福 井 県 議 会 議 員	関 孝治
〃	福 井 県 議 会 議 員	高島寛正
〃	福 井 県 議 会 議 員	山本正雄
〃	福 井 県 議 会 議 員	一瀬明宏
〃	福 井 県 議 会 議 員	加藤正瀬
〃	福 井 県 議 会 議 員	安居喜義
〃	福 井 県 議 会 議 員	谷口忠応
〃	福 井 県 議 会 議 員	笹岡一彦
〃	福 井 県 議 会 議 員	田村康夫
〃	福 井 県 議 会 議 員	仲倉典克
随 行	議 会 事 務 局 参 事	川岸盛雄
〃	議 会 事 務 局 企画主査	小林史枝

平成 18 年度 福井県議会中国訪問団日程

月 日	時間(日本時間)	行 事 等
10 月 24 日 (火)	(9:30 ~ 10:30) (12:30) ~ 13:30 14:00 ~ 16:25 16:20 ~ 17:10	県議会（国際交流会館）発 → 小松空港《移動》 小松空港 発（中国東方航空MU558 便）→ 上海浦東空港 上海浦東空港 発 → 中国東方航空《移動》 中国東方航空表敬
10 月 25 日 (水)	8:00 ~ 11:15 ~ 12:00 14:45 ~ 16:15 17:30 ~ 20:00	ホテル 発 → 杭州市へ《移動》 水仙楼視察 《移動》 浙江大学国家科学技術パーク視察 浙江省人民代表大会政府・浙江省対外友好協会との会見
10 月 26 日 (木)	8:00 ~ 9:30 ~ 10:30 13:00 ~ 17:00 17:45 ~ 20:00	ホテル 発 → 紹興市へ《移動》 魯迅記念博物館視察 紹興市 → 江陰市へ《移動》 江陰市政府との会見
10 月 27 日 (金)	8:30 ~ 9:30 ~ 10:10 10:20 ~ 11:35 11:40 ~ 11:50 13:30 ~ 14:15 14:35 ~ 15:55	ホテル 発 《移動》 日系企業：江陰宮元塑料有限公司 視察 日系企業：内海包装（江陰）有限公司 視察 日系企業：協和食品（江陰）有限公司 視察 江蘇省苜蓿村(天下第一村) 視察 中央教育科学研究所華士附属学校 国際部 視察
10 月 28 日 (土)	8:30 ~ 10:15 ~ 11:40 14:20 ~ 15:10	ホテル 発 → 上海市へ《移動》 日系企業：上海三栄電器(有) 視察 福井県上海事務所 視察
10 月 29 日 (日)	7:00 ~ 9:30 ~ (12:30) (13:30 ~ 14:30)	ホテル発 →上海浦東空港《移動》 上海浦東空港発（中国東方航空MU557 便）→ 小松空港 小松空港発 → 県議会（国際交流会館）《移動》

視察先の概要
別紙のとおり

【中国東方航空 表敬】

1 日 時：平成18年10月24日（火）16：20～17：10

2 出席者：[中国東方航空]

徐 亮 中国東方航空集团公司 外事弁公室 主任

許海冰 中国東方航空有限公司 对外合作主管

[訪問団]

福井県議会中国訪問団 13名

中国訪問団随員 2名

3 次 第：

①出席者紹介（双方）

②美濃義雄 県議会中国訪問団長あいさつ

③徐亮 中国東方航空集团公司外事弁公室主任あいさつ

④福井県議会から上海—小松定期便に関する要望（美濃団長）

⑤意見交換

⑥記念品贈呈（交換）

⑦記念撮影

4 摘 要：

[表敬概要]

本県と中国華東地域は、経済発展の著しい上海などに本県企業が多数進出するなど経済面での交流だけでなく、浙江省との友好提携に基づく文化交流を通じて深い絆で結ばれており、小松空港と上海浦東空港間の定期便は、2004年11月に開設されて以来、地域を結ぶ架け橋として重要な役割を果たす路線であり、2005年12月の週3便化は、この交流の絆を強固なものとするとともに、互いの経済・観光面など一層の発展につながるものとして、徐亮主任に対し感謝の意を示すとともに、更なる定期便の増便について要望を行った。

増便を検討するに当たっては、利用実績の更なる増加が不可欠であり、石川県と協力して積極的な利用促進策の展開を図ってほしい旨、徐亮主任から要望が出された。

福井県議会としては、今後とも石川県と協力して一層のPR活動や空港へのアクセス向上等、利用者の利便性向上に努め、利用実績の増加を図りたいとの考えを伝えた。

中国東方航空の概要や現状について、中国から本県への観光客の現状や問題点などについて、質疑、意見交換を行った。

（参考：搭乗率）16年度：87.7%、17年度：69.7%、18年度9月：67.1%

【 ‘杭州花家山莊’ 水仙楼 視察 】

1 日 時：平成18年10月25日（水） 11：15～12：00

2 場 所：浙江省杭州市西山路法相巷

3 出席者：[訪問団]

福井県議会中国訪問団 13名

中国訪問団随員 2名

4 摘 要：

[‘杭州花家山莊’ 概要]

西湖畔の新観光スポット「楊公堤」エリア内にある別荘式レジャーホテル。福井県の「水仙楼」、静岡県「桂花楼」、栃木県「杜鵑楼」の3つの施設が総合マネージメントで運営されている。各種サイズの会議室、会見室、多目的ホール、ビジネスセンター、レジャーセンターなどがある。客室は138部屋、レストラン部は300人席を設けている。

[‘水仙楼’ 施設概要]

鉄筋コンクリート レンガ造3階建て

延床面積 約4,000㎡

福井県の概要や両県省の交流経緯を紹介する展示コーナー、会議室、会見室、研修室、ビジネスセンター、レストラン、ホテル客室（スイート2室、ツイン43室）

[利用料金] ※福井県からの宿泊客・1泊の場合

スイート	170US\$
ツインルーム（個人、4,5,9,10月）	55US\$
”（個人、上記以外）	50US\$
”（団体、6名以上、4,5,9,10月）	38US\$
”（団体、6名以上、上記以外）	35US\$

[視察概要]

・福井・浙江省友好会館「杭州花家山莊水仙楼」の施設を視察

上海市からバスで約3時間かけて杭州市へ移動。杭州市の郊外、西湖の南西にある福井・浙江省友好会館「水仙楼」を視察。本県と浙江省は、大本山永平寺の開祖道元禪師とその師である浙江省寧波市の天童寺の如浄禪師や、紹興市出身の文豪魯迅とその師であるあわら市出身の藤野巖九郎氏の関係など、古くから関わりを持っている。そして、芦原町と紹興市、福井市と杭州市の友好提携や民間における交流のもと、平成2年6月に知事が訪浙し友好協力協定に調印した。さらに、平成5年10月に萬学遠省長が来県し友好協力協定書に調印、両県省の友好関係が確立した。「水仙楼」は、本県と浙江省が資金を出し合い、両県省の協力により建設したもので、平成8年にオープンしている。現在、施設の管理・運営は浙江省が行っている。平成15年6月の改装により利用客も増えてきており、宿泊利用率は60～70%とのことである。日本語の分かる職員も配置されており、施設視察案内を依頼した。

【 浙江大学国家科学技術パーク 視察 】

1 日 時：平成18年10月25日（水） 14：45～16：15

2 場 所：浙江省杭州市西溪路525号

3 出席者：[視察先]

華 公共工業管理役員博士教授

韓高栄 科技国管理委員会主任、浙江大学科学国友展有限公司総経理博士教授

王李華

[訪問団]

福井県議会中国訪問団 13名

中国訪問団随員 2名

4 摘 要：

[大学の概要]

浙江大学は、浙江省杭州市にあり、現在、中国でも最も規模が大きく、歴史のある重点大学のひとつ。学校は、玉泉、西溪、華花池、湖濱、之江、紫金港の6つの校区に分かれている。哲学、経済学、法学、教育学、文学、歴史学、理学、工学、農学、医学、管理学など11の学部を持つ総合大学である。教職員数は8,500人余り、全日制の在学生数は44,000人以上、外国の留学生は1,000人余りである。前身は、清朝時代に中国の科学と技術の発展を図るためとして創設された「求是書院」。1928年に国立浙江大学と改称。1998年に、浙江農業大学・浙江医科大学・杭州大学と合併して、現在の浙江大学となった。

[科学技術パークの概要]

浙江大学国家科学技術パークは2000年に設立、実験的な国家大学科学パークとして中国でつくられた最初の15箇所のひとつである。国家レベルの大学科学パークとして科学技術部、教育部に公式に推賞されており、また、浙江大学の最先端の科学技術力、資力、最新情報、実験設備を活用している。杭州市のハイテクノロジー産業発展地区の重要な部分にあり、事業は、国家、省、市、大学の優先方針を持っている。2005年までの累計では396企業が入居、全登録資本は15億元を超える。2005年の販売額は15億元に達し、税収は1.5億元になる。約40の会社がパークから離れ新設している。8,000人以上の従業員がパークで働いており、インキュベーションエリアは5,000㎡から72,000㎡に拡大した。

[視察概要]

・華教授、韓教授からの浙江大学、科学技術パークの概要の説明後、質疑、意見交換を行った。

1998年9月に4つの大学が合併し現在の浙江大学になる。110を超える海外政府機関や企業との交流を持っている。大企業から中小企業まで約

400社の企業がパークのインキュベーター施設に入居している。特に、情報科学の企業が29%と最も多い。国家指示のもと設立されたパークのため、ハイテク技術などの優遇を受けることになる。日本企業がこのパークに入る場合は入居手続きの手伝いができる。入居当初は、企業が求めるエネルギーや分析機器等を提供する。国際交流・協力も行っている。

【 浙江省人民代表大会政府・浙江省对外友好協会 会見 】

1 日 時：平成18年10月25日（水）17：30～19：30

2 場 所：浙江省外弁外宴会見庁

3 出席者：[浙江省] 9名

葛聖平 浙江省人民代表大会常務委員会副主任

沈 雷 ” 人民代表大会内務司法委員会主任委員

張鳳鳴 ” 人民代表大会外委会副主任

何一楓 ” 人民政府外事弁公室副主任

虞希華 ” 人民政府外事弁公室亜洲处处长

陳艷勤 ” 人民对外友好協会副秘書長、省对外友協弁公室主任

馬 嵐 ” 人民代表大会外委会弁公室副主任

呉曉東 ” 人民政府外事弁公室亜洲处

王 政 ” 人民政府外事弁公室亜洲处

[訪問団]

福井県議会中国訪問団 13名

中国訪問団随行職員 2名

3 次 第：

①出席者紹介（双方）

②美濃義雄 県議会中国訪問団長あいさつ

③台風8号‘サオマイ’見舞金の贈呈

④葛聖平 浙江省人民代表大会常務委員会副主任あいさつ

⑤意見交換

⑥記念品贈呈（交換）

⑦記念撮影

⑧開宴（場所：‘杭州花家山莊’ 3号楼仙子宮）

4 摘 要：

[会見等の概要]

葛聖平 浙江省人民代表大会常務委員会副主任との間で、これまでの両省県の交流の成果や地域レベルでの国際交流のあり方について意見交換を行った。

2004年11月には(社)福井県観光連盟と浙江省政府との間で観光交流に関する協定書が取り交わされ、また、2005年12月には小松空港と上海浦東空港

間の定期便が増便され経済交流の機運が盛り上がり、両省県における今後一層の交流と協力を強める方針を明らかにした。両省県の議会は、友好提携以前の1990年の友好協力協定締結の時から、浙江省人民代表大会と隔年毎の相互訪問を行ってきたが、今後とも両省県間の交流を引き続き推進していくことを確認しあった。

本年8月10日に中国上陸した台風8号「サオマイ」により、浙江省が甚大な被害を被ったことについてのお見舞いと、一日も早い復旧・復興を祈念して、『福井県議会日中友好議員連盟』から見舞金を贈呈した。

【 魯迅記念博物館(紹興市) 視察 】

- 1 日 時：平成18年10月26日(木) 9:30～10:30
- 2 場 所：中華人民協和国浙江省紹興市昌坊魯迅中路
- 3 出席者：[訪問団]
福井県議会中国訪問団 13名
中国訪問団随員 2名

4 摘 要：

[‘魯迅記念博物館’概要]

種 別 博物館

面 積 7,000㎡

所要時間 1時間

施設内容

魯迅故居、三味書屋、陳列館などの建物がある。陳列館には、魯迅の直筆原稿、写真、手紙、衣服など600点余りが展示されている。

[視察概要]

- ・紹興市‘魯迅記念博物館’を視察

江蘇省江陰市へ向かう前に、浙江省杭州市からバスで約1時間半をかけ紹興市へ移動、魯迅故里‘魯迅記念博物館’を視察する。‘魯迅記念博物館’では、魯迅故居、三味書屋、陳列館などを見学した。魯迅故居は、魯迅の生家であり清朝時代に建てられた国家級の文化財である。魯迅は17歳までこの家で暮らし、「故郷」という小説の舞台になっている。三味書屋は、魯迅が子どもの頃に学んだ清末期の紹興で最も厳格な私塾である。塾の前は運河になっており、烏ソウ船という黒い船が止まっていた。陳列館には、魯迅の直筆原稿、写真、手紙、衣服など600点余りが展示されており、魯迅の波乱の一生、そして、藤野厳九郎との師弟関係を伺い知ることができる。

魯迅は本名、周樹人。1881年に紹興市の大地主である周家の長男として生まれたが、祖父の入獄や父親の病死により、土地を手放すほど困窮するまでになる。11歳の時に三味書屋で学び科挙(官僚の登用試験)に備えていたが、父親の

病死により、南京に行き海軍学校（江南水師学堂）や陸軍学校（鉱路学堂）に入学し優秀な成績を収めたと言われている。卒業後、官費留学生として日本に留学、東京の弘文学院普通科で学んだ後、仙台医学専門学校に入学、ここで解剖学を担当していた藤野厳九郎と出会っている。藤野厳九郎は教育者として厳格であったが、魯迅のノート添削に見られるような優しさもあったと言われている。この時代はちょうど日露戦争のころで、魯迅を医学から文学の道へ進む転機となったのが「幻灯事件」として知られている。魯迅が退学を告げ仙台を離れる際に、藤野厳九郎は自宅に彼を呼び自分の写真を渡している。裏には「惜別 藤野 謹呈周君」と書かれていた。その後、魯迅は故郷の紹興で教師になり、辛亥革命後、教育部に入り北京に移住した。1918年に「阿Q正伝」を発表。社会批判をすることにより、人民に「これではいけない」と自覚させ自立を呼びかけ続け、北京から広東、上海と移り住み、55歳で亡くなっている。

その後の魯迅と藤野厳九郎のつながりは、1983年に藤野厳九郎の出身地である芦原町と紹興市が姉妹友好提携を結んでいる。その後、1989年に福井市と杭州市が姉妹友好提携を結び、1990年に福井県と浙江省が友好協力協定を、1993年には友好提携協定書の締結に至っている。魯迅と藤野厳九郎の師弟関係が両県省の交流の架け橋になっているとも言える。

そして、本年は‘藤野厳九郎と魯迅の惜別’から100年の年である。県では、特別講演会や特別展「再読・藤野先生」、書道コンクール等の記念行事を開催する。この記念の年に、魯迅の生誕地を訪ね‘魯迅記念博物館’を見学し、両氏の絆等を確認することにより、本県と浙江省のこれまでの交流を改めて確認し、今後、さらに友好促進を図っていくべきであることを実感する。

【 江陰市政府 会見 】

1 日 時：平成18年10月26日（木）17：45～20：00

2 出席者：[江陰市]

朱民陽 江陰市委員会書記、無錫市委員会常務委員

黄満忠 江陰市委員会主席

唐仲賢 江陰市霞客鎮委員会書記

陸 軍 江陰市霞客鎮人民政府鎮長 ほか3名

[訪問団]

福井県議会中国訪問団 13名

中国訪問団随員 2名

3 次 第：

①出席者紹介（双方）

②朱民陽 江陰市委員会書記あいさつ

③美濃義雄 県議会中国訪問団長あいさつ

- ④意見交換
- ⑤記念品贈呈（交換）
- ⑥記念撮影
- ⑦開宴

4 摘 要：

[会見等の概要]

浙江省紹興市から高速道路を利用してバスで約4時間をかけ江蘇省江陰市に到着する。

朱民陽書記から江陰市の状況説明を受け、双方の交流と協力を強める方針を明らかにした。海外に拠点をおく本県企業219（2005年9月1日現在）のうち126が中国であり、そのうち18の企業が江蘇省にある。今回視察を行う‘陰宮元塑料有限公司’は江陰市に拠点があり民間レベルで進んでいる経済交流の成果や、今後の議会、行政、民間、地域レベルなど幅広い分野における両市県の交流のあり方について、意見交換を行った。また、2005年12月には小松空港と上海浦東空港間の定期便が増便され経済交流の機運が盛り上がり、両市県における今後一層の交流と協力を強める方針を明らかにした。

【 江陰宮元塑料有限公司 視察 】

1 日 時：平成18年10月27日（金）9：30～10：10

2 場 所：江蘇省江陰市霞客鎮璜祝路

3 出席者：[視察先]

宮元武壽 当事長総経理

[訪問団]

福井県議会中国訪問団 13名

中国訪問団随員 2名

4 摘 要：

[現地会社概要]

業務内容 ポリエチレン袋製造・グラビア印刷・水切りゴミ袋製造
ペットボトル・ポリエチレン再生リサイクル商品製造
不織布製品製造 等

資本金 US\$550,000

会社設立 2000年10月24日

従業員数 合計210名

[本社概要]

名 称 株式会社ミヤゲン

住 所 敦賀市山泉7-15-3

業務内容 包装資材、水産資材の製造販売

設 立 昭和28年
資本金 3,000万円
従業員 37名

[視察概要]

- ・宮元社長からの会社概要等の説明後、質疑、意見交換を行い、工場を視察。

昭和28年に操業した(株)ミヤゲンは包装資材や水産資材などの製造販売を行っている。現在、ペットボトル再生原料を使用した台所用水切り袋や生分解性樹脂使用の台所用ストッキングタイプ水切り袋などの環境分野にも事業を拡大している。1999年に浙江省杭州市で開催された福井産品展示会で、紹興市に福井工業団地としての進出用地があるとの情報を得て、貸し工場での進出を行ったが、停電や断水に悩まされた上に、日本で使用していた生産設備が上海で通関できなかった。その後、江陰市の経済顧問を務めている小泉県議会議員の助言により江陰市での再投資を決めた。身元保証人として紹介され副社長に就任した呂菊華氏は日本語が万能で地元江陰市の政府関係者を熟知しており、関税の許認可や人材採用などを円滑に行うことができ、2001年に「江陰宮元塑料有限公司」を設立した。当初は18名の従業員であったが現在は200名を超え、2002年には生産設備も拡充を行い、生産体制は日本の本社よりも大きくなっている。中国で生産される製品のほとんどが日本市場で販売されている。工場では、福井市や越前市など、本縣市町のゴミ袋が生産されている状況を視察できた。現在、地元販売は10%程度であるが、中国の販路先を増やしているところである。利益は3年目から出てきており、昨年で借金がなくなった。外資優遇税として、利益が出て2年間は法人税が免除されるため、昨年は全額を日本に送金している。従業員への賃金は最低賃金が決められている。5月に従業員の寮を作ったばかりである。円高、税制優遇措置の変化、賃金の上昇などのリスクも経験している。成功の一番の理由は、地元政府に通じる人脈を持ったことである。日本人は社長一人だけであり、ロコミで社員を採用している。

【 内海包装（江陰）有限公司 視察 】

- 1 日 時：平成18年10月27日（金）10：20～11：35
- 2 場 所：江蘇省江陰市霞客鎮璜塘工業園區元塘路
- 3 出席者：[視察先]
加藤智士 当事総経理
呂 菊華 副総経理
[訪問団]
福井県議会中国訪問団 13名
中国訪問団随員 2名

4 摘 要：

[現地会社概要]

業務内容 高機能性樹脂用・医薬用・食品用等に使用する容器、
材料の製造

資本金 US \$ 5, 500. 000

会社設立 2005年5月9日

従業員数 約180名

[本社概要]

名 称 ナイカイ企業株式会社

住 所 岡山県玉野市西田井地 2373- 4

業務内容 重包装用大型紙袋、小型角底紙袋、樹脂紙袋など製造

設 立 昭和48年

資本金 5, 000万円

従業員 80名

[視察概要]

・加藤社長からの会社概要等の説明後、質疑、意見交換を行い、工場を視察

ナイカイ企業(株)は、昭和47年にナイカイ興業(株)製袋事業部として大型紙袋等の製造販売を開始。昭和48年に製袋業・包装業・運送業等を分離し、ナイカイ企業(株)設立。その後、運送業務、包装部門、イオン膜整備業務を分離して現在に至っている。工業用・食品用の重包装用紙袋の製造販売や防湿・耐油等の対応策としてポリエチレンやアルミ複合フィルムを組み合わせた包装袋も製造し、工業薬品から医療用まで新たな分野への用途開発に取り組んでいる。

内海包装(江陰)有限公司は、2005年5月に江陰市の霞客鎮璜塘工業園に設立、高機能性樹脂用・医薬用・食品用等に使用する容器・材料の製造を行っている。約25,600㎡の敷地があり、約5000㎡の工場と倉庫、宿舍等がある。従業員は165名(2006年9月15日現在)で、うち日本常駐員は3名。平均年齢は22歳である。最終的には180名を予定している。昨年12月に従業員を募集したところ約300名の応募があり70名を採用した。職員への研修が重要と考えており、1週間の清掃作業、本社の指導員による技術指導、班長会議の開催等の反復練習を行っている。また、副社長による職員ミーティングを週1回、社長を含めたミーティングを月1回開催し、ホウ・レン・ソウ(報告・連絡・相談)の徹底を図っている。

ナイカイ企業(株)は、「塩田王」と呼ばれ、旧宅の建築物が国の重要文化財に指定されている野崎武左衛門が、文政12年(1829年)に、倉敷市において始めた塩田事業が発祥であるナイカイ塩業(株)のグループ(ナイカイグループ)企業である。

【 協和食品（江陰）有限公司 視察 】

1 日 時：平成18年10月27日（金） 11：40～11：50

2 場 所：江蘇省江陰市霞客鎮璜塘工業園区鳳翔路

3 出席者：[視察先]

林喜利 当事総経理

[訪問団]

福井県議会中国訪問団 13名

中国訪問団随員 2名

4 摘 要：

[現地会社概要]

業務内容 各種天然調味料の製造・販売

資本金 US\$ 3,500,000

出資者 協和発酵フーズ(株)100%

従業員数 合計120名

会社設立 2005年11月22日

工場竣工 2006年10月28日

生産開始 2006年12月（予定）

[本社概要]

名 称 協和発酵フーズ株式会社

住 所 東京都江東区亀戸1-5-7

業務内容 調味料、製菓、製パン資材などの開発・製造・販売

設 立 2005年4月に協和発酵工業(株)から分社

資本金 30億円

[視察概要]

・林総経理の案内で工場を視察

協和食品（江陰）有限公司の視察は、予定の日程には組まれていなかったが、内海包装（江陰）有限公司の近く（江陰市霞客鎮璜塘工業園内）に新しい工場が竣工されるということから、急きょ工場視察を依頼した。工場では主にアミノ酸系天然調味料が生産される。協和食品（江陰）有限公司は、協和発酵フーズ(株)が、天然調味料の中国における新たな生産拠点として設立したもの。協和発酵フーズ(株)は、調味料、製パン資材の開発・製造・販売などの食品事業を行う会社として、2005年4月に協和発酵工業(株)（昭和24年設立。資本金26,745百万円、従業員数5,800名、医療用医薬品・臨床検査試薬、医薬品原料・各種アミノ酸等の製造販売）から分社している。1999年に、無錫市に「無錫協和食品有限公司」を設立、中国での天然調味料の製造を開始し、また、2004年には第2工場を設立、中国での生産体制を整え製造販売ノウハウを蓄積してきている。

そして、今回、江陰市に新工場を設立、大型設備を導入し、これから拡大が予想される中国市場などにも対応可能となるよう生産ラインの増強を図るとのことである。

【 江蘇省茸西村(天下第一村) 視察 】

1 日 時：平成18年10月27日（金）13：30～14：15

2 出席者：[訪問団]

福井県議会中国訪問団 10名

中国訪問団随員 2名

3 摘 要：

[村の概要]

位置 江蘇省江陰県華西村

人口 周辺村との合併後 16,000人強（建村時の10倍以上）

面積 13km²（建村時の約13倍）

建村 1961年

村の共産党委員会書記・呉仁宝氏の指揮の下、70年代末以降の改革開放路線によって村営企業の工業化を推進。99年には村名義で株式上場も果たしている。

[視察概要]

・江陰市朱民陰書記に依頼し、茸西村を視察

江蘇省茸西村の視察は、予定の日程には組まれていなかったが、前日の江陰市政府との意見交換会の際に朱民陰書記に依頼し視察が実現した。茸西村の旅行センターから、村のシンボルである金の塔「茸西塔」に登る。約19億円を投じた金箔塗りの尖塔で、1階は‘茸西ブランド’を販売するデパートであり、その他、レストランやホテル、会議室が入るビル。この塔の最上階からは村の全景を見下ろすことができた。数百棟の統一された3階建ての家が整然と並んでおり、全て、村が建築し完成後に村民に割り当てたものである。茸西村は「天下第一村」と呼ばれており、1970年代後半に農業から転進した工業が村に富をもたらしたようである。茸西村が作った茸西グループには、集団企業や合資、合弁、連合経営企業、個人企業、それに上場企業など50社余りの企業がある。現在、繊維、鉄鋼、観光が主要な産業であり、毎年20%前後の経済成長率を達成してきている。グループ（村）全体の収入は約300億元。村民が株主で、株主配当などの形で配分されている。

【 中央教育科学研究所華士附属学校国際部 視察 】

1 日 時：平成18年10月27日（金） 14：35～15：55

2 場 所：江蘇省江陰市華士鎮璜杯城南路

3 出席者：[視察先]

呉辰 校長

夏青峰 国際部主任

鈴木晶子 通訳

[訪問団]

福井県議会中国訪問団 10名

中国訪問団随員 2名

4 摘 要：

[学校の概要]

2003年6月に開学。国際部は、幼稚園から高校まで36クラスがある。特別級の教員を中心に一流の教員を多くそろえている。また、外国人教員も数人おり、英語、日本語、ロシア語、韓国語などの外国語や文化を講義している。

華士実験校は、陶行知の精神を学校経営の理念に掲げ、その実現を目指している。陶行知の精神とは「生活教育」のこと。‘生活教育は、生活の教育、生活それ自体によって行う教育、生活に必要な教育である。教育の根本的な意義は、生活の変化であり、生活はいつでも変化しているから、生活いつでも教育の意味を持っている’と説明されている。中国農村の児童は農作業に従事する労働力として不可欠であり、ほとんどの農民が無教育、非識字であったことから、1930年段階での義務教育就学率は全国平均で約20%にすぎなかったようである。陶行知は、民主主義的な教育学説や教育における実験的科学的な方法を提唱したデューイのもとで学び、都市と農村との教育における不平等を解決するため「平民教育」の農村への普及に力を入れている。華士実験校国際部は、現在、第10次「国際5カ年計画」教育の科学的プログラムを進めている。

[視察概要]

・呉辰校長の案内で校内を視察、幼稚園部児童から合唱などによる歓迎を受け、日本語専攻の中学・高等部生徒との意見交換を行った。

中央教育科学研究所華士附属学校国際部の視察は、予定の日程には組まれていなかったが、通訳の鈴木さんが2年間勤務していた学校ということで視察が実現した。幼稚園部では、日本の歌の合唱や踊りによる歓迎を受け、中学・高等部の生徒からは日本語のスピーチによる歓迎や質疑、意見交換を行った。華士は農村であるが生徒を国際人に育てたいとのことであった。2003年の入学生は既に卒業しており、多くの卒業生が日本企業に入ったり日本に留学している。世界が平和で発展し人々の生活が豊かになるよう互いにますます努力していきたいとのことであった。

【 上海三栄電器有限公司 視察 】

- 1 日 時：平成18年10月28日（土）10：15～11：40
- 2 上海市嘉定区馬陸鎮滬宜公路2525路
- 3 出席者：[視察先側]
鵜野圭司 統括総経理
唐 洪林 副総経理
[訪問団側]
福井県議会中国訪問団 10名
中国訪問団随員 2名

4 摘 要：

[現地会社概要]

業務内容 電子電気機器製造
資本金 US \$ 8, 450, 000
出資者 日本サンエー電機(株)100%
合作相手 上海天宏実業公司 30年間
従業員数 合計576名
日本駐在員 男性9名、
現地社員 男性161名、女性403名
営業許可書取得 1994年1月11日
生産開始 1994年10月1日

[本社概要]

名 称 サンエー電機株式会社
住 所 福井市甕谷町 28-1-9
業務内容 電子、電気機器製造業
設 立 昭和44年
資本金 5, 000万円
従業員 233名

[視察概要]

・鵜野統括総経理からの上海三栄電器有限公司、常熟三栄電器有限公司の概要等の説明後、質疑、意見交換を行い、上海三栄工場の視察。

サンエー電機(株)は、昭和44年に武生市で創業。電子および電気機器の製造を行う総合電子機器メーカーであり、現在は、OA・モバイル・計測分析・医療機器事業に加え、マルチメディア分野への展開を図っている。清水・大野・武生の3つの工場と、関連会社として、サンエー(株)、奈良サンエー(株)、上海三栄電器有限公司、常熟三栄電器有限公司がある。

上海三栄電器有限公司は、平成6年1月に上海市嘉定区に設立。従業員は576名、うち日本駐在員は9名である。20, 333 m²の敷地に、3つの工場、食堂、宿舍などがある。設立当初は500万US\$（サンエー電器(株)100%

出資)の資本で始めている。徐副理事長が政府との調整を行っており、土地は30年契約で借りている。繁忙期は派遣の外部社員を雇用し変動に対応している。インフラ関係では、電機は、夏場は1週間に一度は完全に休業するよう依頼があり、対応している。第1工場はSMT(配線に余計な空間をとらない電子部品の組立て技術。電子機器の小型化に伴って適用されている。)ラインで一日フル稼働、第2工場は手作業、小ロット生産を行っている。部品倉庫はバーコード管理で生産計画にあわせて管理している。

中国への進出は、1993年にSHARPが常熟市に複写機生産販売会社SOCC(夏普弁公設備(常熟)有限公司)を設立したことが契機となっている。加工が主体であるため賃金が安いことが必要であるが、当初は600元であった月給が、18年9月現在では最低賃金が750元となっており、社会保険等も含めると会社負担は1.4倍になっている。賃金は消費者物価の上昇率を参考にベースUPしている。上海市は物価指数が高く、2002年に約1,800元であった平均給与が、2005年では約2,500元となっている。高い賃金であっても1分間の生産性を高めて事業を推進していく方針とのことであった。

従業員は、嘉定区への通勤が困難な場合は家を借りている。設立して11年が経過しており、約7割が7~8年勤めている。10年以上働いている場合、本人から申請があった時は終身雇用しなければならない。企業に対する帰属意識は決して高くないようで、給料が高ければ転職してしまうとのことである。企業情報が漏れやすい状況にあり、重要な情報をどのようにキープするかが課題である。言葉の問題もある。意図や目的が社員にきちんと伝わっているのかは、現場に出向かないと分からず、日本の2~3倍もの労力がかかっていると感じている。

問題点としては、優秀な社員がインターネット等により周辺の採用情報を各自で調べ給料が高い会社へ転職してしまうことや賃金上昇への対応である。また、最近の不安定な上海市の政治状況も心配であり、法人税制度が厳しくなるのではないかと危惧している。そして、最も重要と考えているのが、製品の品質確保の継続である。新しい技術、進歩していく技術を会社の中に植えつけていかなければならないと考えている。

工場の視察は行わなかったが、2005年5月に、江蘇省常熟市虞山新技術産業園に常熟三栄電器有限公司を新設している。従業員は239名、うち日本駐在員は8名である(2006年4月現在)。SHARPの事業拡大に対応するために、SHARP常熟工場の近郊に工場を新設し、上海三栄との2工場での生産による能力のUPを図っている。

【福井県上海事務所 視察】

- 1 日 時：平成18年10月28日（土）14：20～15：10
- 2 場 所：上海市延安西路2201号上海国際貿易中心2楼212室
- 3 出席者：[視察先側]

湯川直 県上海事務所所長

銭江峰 ビジネスコーディネーター（NNA上海所属）

[訪問団側]

福井県議会中国訪問団 10名

中国訪問団随員 2名

4 摘 要：

[事務所概要]

開 設 1999年6月

業務内容 ・ 県内企業の販路開拓や海外進出のバックアップ
・ 海外見本市参加、視察ミッション派遣の支援
・ 海外各地域の経済、社会情勢等の最新情報の提供

担当地域 中国（香港、広東省を除く）

*香港、中国広東省、東南アジア地域は‘香港事務所’が担当

職 員 駐在員（所長）：湯川直 H17年4月～

アシスタント：周慧芳 H11年6月～

ビジネスコーディネーター：銭江峰（NNA部長）H16年6月～

- ・ ビジネス関連照会対応
- ・ ミッション手配
- ・ ビジネスマッチング
- ・ 視察等アテンド 等

経済顧問：小田護（CJコンサルタント代表） H18年9月～

- ・ 上海事務所が行う企業支援活動に対する助言
- ・ 中国経済情報の提供

[県内企業の海外進出状況]

海外進出 219拠点

東アジア 171拠点

中国全体 71社126拠点

華東地域 53社 71拠点

上海市 34拠点

浙江省 18拠点

江蘇省 18拠点

（2005年年9月1日現在 福井商工会議所調べ）

*海外進出企業は、1か国に複数の工場や営業所を持っていることが多い
ため、その総数を拠点数として計算している。

[視察概要]

・湯川上海事務所長および銭江峰ビジネスコーディネーターから上海事務所の業務内容等の説明を受け、質疑、意見交換を行った。

現在、本県の海外事務所は、上海事務所と香港事務所がある。香港事務所は、1991年に設立、現在は中国広東省、香港、マカオ、台湾、東南アジア諸国を担当している。上海事務所は1999年に設立し、香港事務所の所管以外の中国全域を担当している。

上海事務所の職員は、常勤が駐在員1名とアシスタント1名。非常勤として、ビジネスコーディネーターと経済顧問が配置されている。

業務は、企業支援、観光客誘致、友好交流、県人会事務局、定期情報の発信等である。企業支援は、商制度・商習慣に関する相談、販路開拓相談、取引先候補の紹介、訪問先への同行などを行っており、ビジネスコーディネーターの銭氏や経済顧問の小田氏がアドバイスをを行っている。観光客誘致としては、旅行会社に対するPRや各メディアへの‘福井’の周知、友好交流としては、浙江省人民政府外事弁公室や各地の魯迅関連機関等との交流支援を行っている。また、県人会の事務局として、交流会の随時開催や県進出企業間の情報交換の場を提供している。情報の発信としては、随時県内企業からの相談や商談活動について個別・具体的に情報提供しているほか、週1回発信の‘マーケットトレンド情報’、定期的に発信しているビジネスレポートや年数回の帰国報告会等を通じ総合的な情報を提供している。

事務所への相談内容は、中国進出に係る事前調査が多い。需要の状況、材料の確保等である。現在は、工場立地に関する相談はほとんどなく、販売店進出の相談が多い。2002年以降、中国は生産拠点ではなく、市場として注目されている。化粧品販売、美容院、日本語学校など、サービス業が主体となってきている。中国進出は、第1段階が‘中国で生産し日本で販売する’ことであったが、現在は‘中国市場をターゲットとして中国で販売する’という第2段階に入っている。農作物については、りんご、梨などの果物や加工品しか売ることができず、生鮮食品は販売することができないとの課題もある。

県は、2004年3月に「東アジア・マーケット開拓戦略プラン」を策定しており、上海を含む海外事務所が行う支援策として、現地における相談活動や販路開拓に係る商談支援活動、中国市場の最新情報の提供等を行うこととしている。これらの方針に基づいて上海事務所は、県内企業からの相談や情報提供等を随時行っている。そして、本年度、「東アジア・マーケット開拓戦略プラン」の見直しが行われ、県海外事務所の機能強化が示された。情報収集・提供活動の強化として、現地政府、現地キーパーソンに加え、現地企業、日系商社・金融機関等と連携し、県内企業のニーズにあった市場情報や専門性の高い情報をタイムリーかつ的確に提供すること。また、県と企業等が連携した販路開拓活動を促進するため、現地企業との商談の場や現地訪問中のオフィスとし

て、県海外事務所スペースの活用を図ること。そして、改正が頻繁に行われる法制度の情報をいち早く入手するため、現地行政機関との連携強化を図るとともに、制度的な課題については、国、貿易振興機関等と連携し、現地政府、行政機関に強く改善を要望していくことである。